

5月30日正午必着

明石春浦先生書



禪房夏木深 (裴迪)

禪寺には夏の木立ちが樹陰を深くしている。

明石幸子書



芳樹無人花自落

春山一路鳥空啼 (李華)

人のおとずれもない山間の芳樹は花が自ら散り、春山のこみちを行けば鳥が静かに啼いている。



条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

満地線陰(王紘)

満地の線陰

一面に樹木が繁茂している。

曲池揚素波 列樹敷丹榮
上有特栖鳥 懷春向我鳴

曲池は素波を揚げ 列樹は丹榮を敷く
上に特栖の鳥有り 春を懷い我に向って鳴く

曲池には白い波がうちよせ、並木には紅い花が咲きならぶ。樹の上には孤独にすむ鳥が、春の盛りにつれを求めて私に訴えるように鳴いている。

洛陽早春 (顧況)

洛陽の早春 顧況

何地避春愁 終年憶舊游

何れの地にか春愁を避けん 終年旧遊を憶う

一家千里外 百舌五更頭

一家千里の外 百舌五更の頭

客路偏逢雨 鄉山不入樓

客路 偏えに雨に逢い 郷山 楼に入らず

故園桃李月 伊水向東流

故園 桃李の月 伊水 東に向かって流る

夜もすがら竹の嵐に吹かれつつ 朝咲き保つ庭ざくら花 (尾上柴舟)

半紙部規定課題A

5月30日正午必着

閻 僧
寒 闍
西

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

5月30日正午必着

行書

僧開西閣寒

隸書

僧開西閣寒

明石春浦先生書

草書

僧開西閣寒

行草書

僧開西閣寒

林中に住居には格別の楽しみもなく 花壇の垣根のほとりに茶を淹れるほどのこと
 雀は北の窓辺に餌を啄んで日は暮れゆき 僧が西の閣をうち開けばひえびえとしている
 橋につきあたりつつ、二つの川はすみやかに流れ 月光の下に撞く鐘の音はわびしくもうすれゆく
 夜明けにはまたお別れせねばならぬ 前途の険しさをいたずらに悲しむばかり

龍翔喜「胡權訪宿」 喩鳥

林棲無異歡

煮茗就花欄

雀啄北窓晚

僧開西閣寒

衝橋二水急

扣月一鐘殘

明發還分手

徒悲行路難

龍翔にして胡權が訪ねて宿するを喜ぶ 喩鳥

林棲 異歡無し

茗を煮て 花欄に就く

雀は北窓の晩に啄み

僧は西閣の寒きを開く

橋を衝いて 二水急に

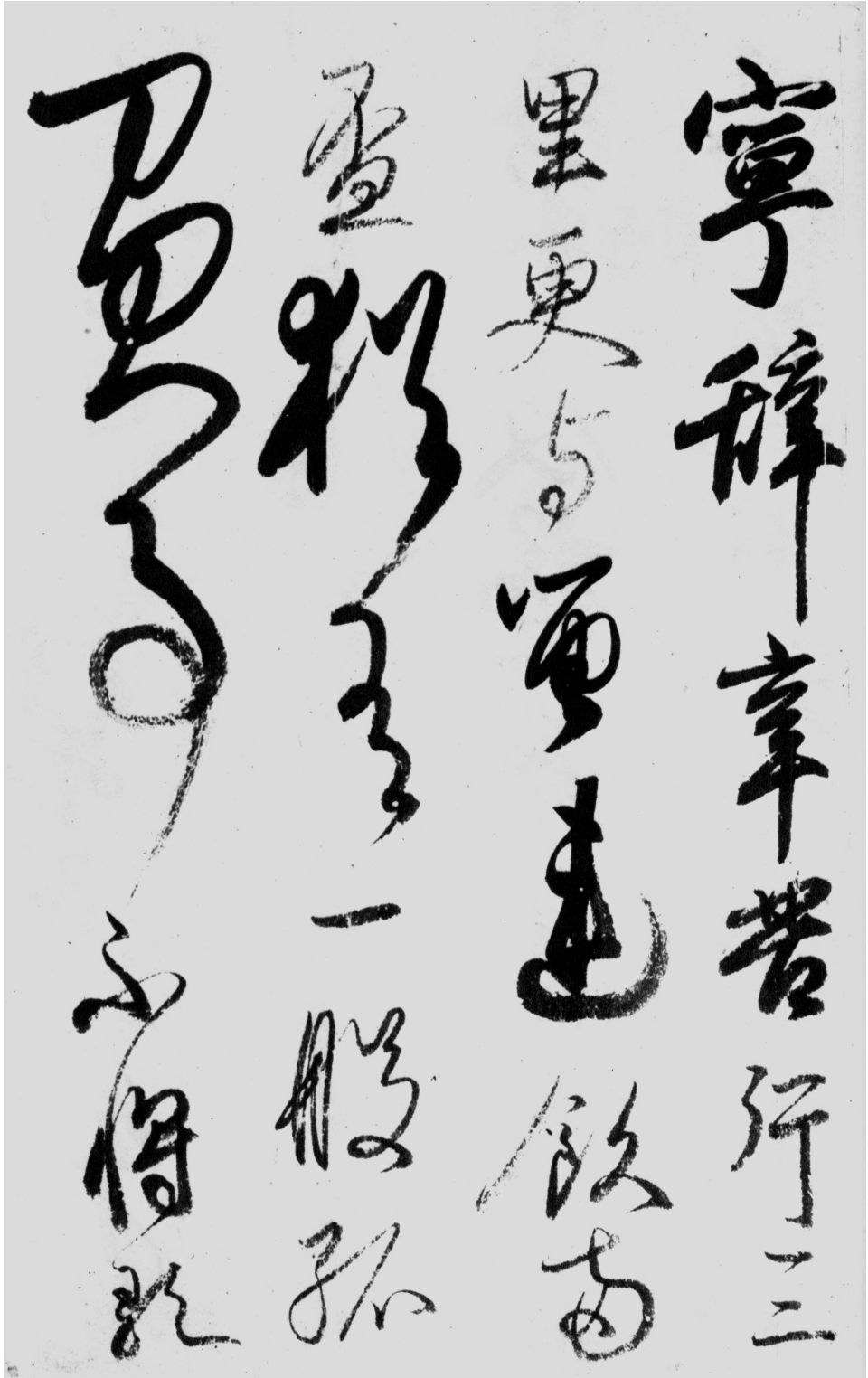
月を扣いて 一鐘残す

明發 還た手を分つ

徒らに悲しむ 行路の難きを

(出典) 朝日新聞社刊 「三体詩」下より

條幅部半紙部臨書課題



寧辭ロセイヤ辛苦シヤクク行ウツ三里ミ

更與ニヒヒ留連シテ飲マン兩盃ニ

猶有ホ一般ニ孤負リ事ノ

不將モツ歌ヲ



寧辭 辛苦行三里 更與留連飲兩盃



寧辭 辛苦

小野道風・玉泉帖

小野道風は、遣隋使で名高い小野妹子を先祖にもつ名門の家系に生まれ、「能書」の功により藏人所に召し出され、書をもって官に仕えた。その書は後に、藤原佐理、藤原行成と共に、三跡と称せられる。王羲之書法を骨格に、和様書道の源を開いた日本書道史上大きな存在である。

道風の書に通じて見られるのは、独特のねばりであり、筆太い線を駆使して、整った字形の中にみみぎる豊満な様相である。運筆はゆるやかなうねりを持ち、一定の筆圧を保ちつつ運んでいて、これが和様と称せられる書風の典型である。

玉泉帖は、同じ道風の書でも、屏風土代（土代は下書きの意）が勅命で揮毫した作品でいろいろな制約があったのに対し、自分の気のおもむくままに詩（白居易の詩文集）を書いたものである。楷、行、草の三体を効果的に交え、文字の大小、墨の潤濁、さらに、筆線の肥瘦の変化を加味し、変化縦横で、実に自由奔放で大胆な書きぶりになっている。

巻末に、「是を以て褒貶を為すべからず、例体に非ざるに録るのみ。」と自ら跋語を書き加えていることから、自分の書風とは意識的に違えた斬新な創作で、道風としての力量を十二分に發揮した作品といえるだろう。※褒貶 褒めることと、けなすこと。（春龍）

5月30日正午必着

教育部毛筆



じゅつ
述

かい
懐

中学一年

雨宮春聲先生書



ねん
念

がん
願

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



びょう どう
平 等

小学五年

榎戸春龍先生書



てき かく
的 確

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

5月30日正午必着



ちゅう 中
しん 心

小学三年

藤田幸春先生書

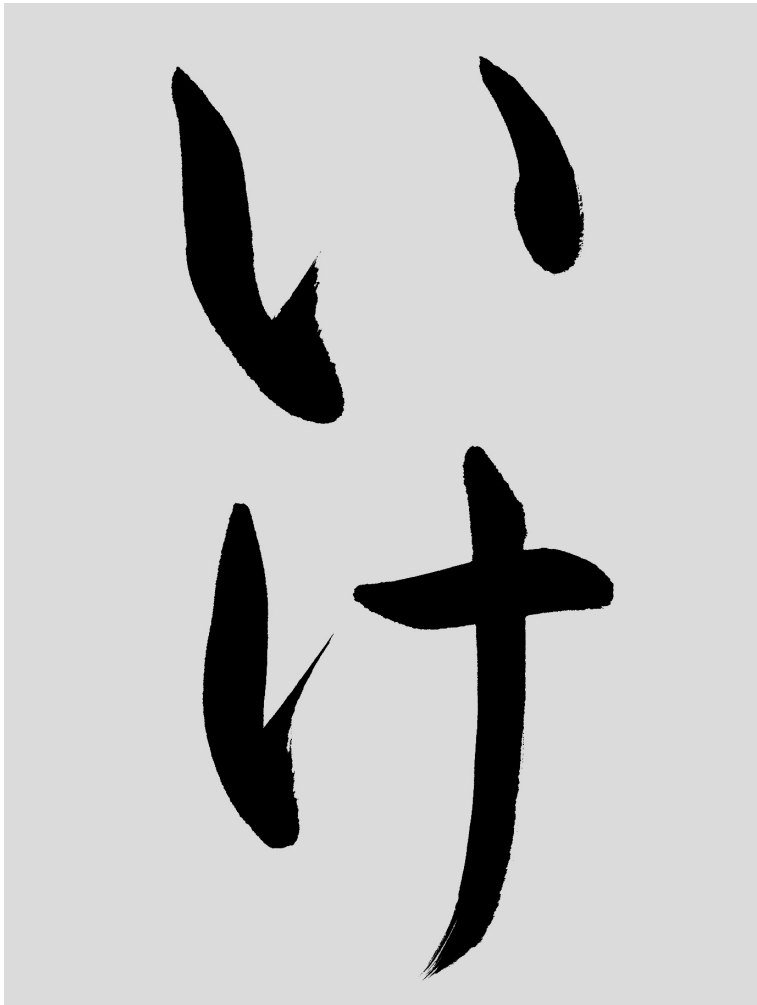


げん 元
き 気

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

い け 小学一年・幼年



森戸春濤書

人 工 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

森林の中を歩きながら
すきな歌を口ずさむ

小学五年

名人がかかなでる美しい
楽器の音色が聞こえる

小学六年

緑の木々にこだます
る小鳥たちの歌声

中学

お変わりありませんか
久しくお目にかけません

一般(級位)

明けぬれば暮るるものは知りながら
なほ恨めしき朝ぼらけかな
（藤原道信朝臣）

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

か	み
	ん
き	な
こ	の
え	
ま	う
す	た

幼年

天	う
ま	た
で	ご
と	え
ど	た
け	か
	く

小学一年

元	大
気	き
に	な
う	こ
た	え
お	で
う	

小学二年

合	音
わ	楽
せ	の
て	リ
お	ズ
ど	ム
る	に

小学三年

ん	花
だ	や
カ	の
ー	店
ネ	先
ー	に
シ	な
ョ	ら
ン	

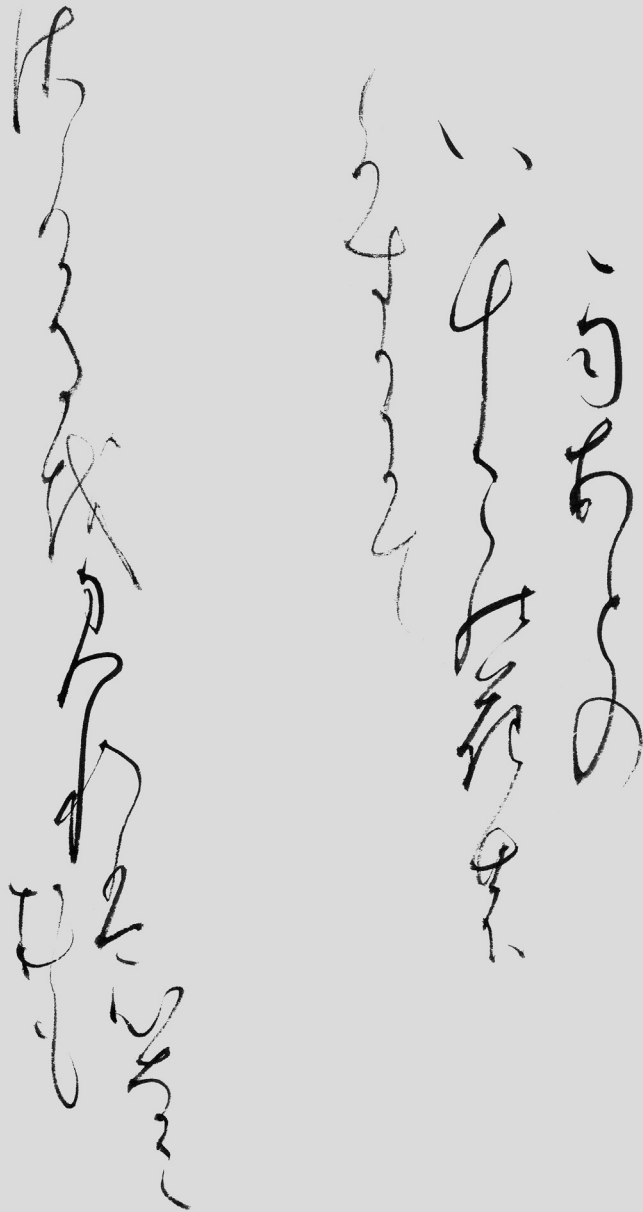
小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

あとの
いちごの花の
かすかにて
さけるを見れば
心なごむも

あとの
いちごの花の
かすかにて
さけるを見れば
心なごむも



雨あとの
いちごの花の
かすかにて
さけるを見れば
心なごむも
(斉藤茂吉)

松永翠舟先生書